



福岡県立大学と 共に歩む会会報

平成 23 年 1 月 1 日号

発行責任者 秋吉 一明
編集責任者 重藤 和巳



年頭にあたって

秋吉 一明

あけましておめでとうございます。“継続は力なり”結成 19 年を迎える「共に歩む会」を本年も宜しくお願い申し上げます。

さて、県立大学は今年開学 20 周年を迎えます。平成 18 年独立法人化に基づき、名和田先生が初代理事長兼学長として就任され、県立大学は学生の教育、研究は勿論の事、第一の使命は地域、社会貢献にあると明言され学内の付属研究所内にヘルスプロモーション研究実践センター、不登校、ひきこもりサポートセンターの設置又社会貢献ボランティア支援センターの開設等、地域に開かれた県立大学の姿を着実に示してくれています。又私どもの「共に歩む会」ではこの 20 年間大学周辺の整備、大学の支援活動、留学生の支援活動に力を入れて参りました。現在県立大学はアジア各地の大学との学術交流、留学生の交換に力を入れております。昨年より県立大学には南京師範大学より 7 名、韓国の大邱韓医大学より 3 名の公私費の交換学生が留学しており、又教員の教育、研究交流として北京の中医薬大学、ソウルの三育大学、タイのコンクン大学と交流協定が締結され、今後ますます留学生が増加すると思われるので、学内の国際交流委員会、田川ロータリークラブ、田川プロバスクラブ等の諸団体と連携し支援体制を強固にしていきたいと思っております。

また我々の長年の留学生支援活動が評価され昨年 6 月 24 日九州国際ホールにて福岡地域留学生交流推進協議会より表彰を受けました。今後の励みになればと思っております。又今年「共に歩む会」結成 20 周年に向け 10 周年の際に行った様にシンポジウムや南京師範大学訪問等の記念事業を企画していきますので皆様ご指導、御協力のほど宜しくお願い致します。最後になりますが、大学と地域を核とした町づくりのパイプ役がこれからも果たせるよう、一層の努力をしていきたいと思っておりますので、さらなる会員の獲得を皆様をお願いしたいと思っております。



師大留学生 自己紹介の続き です

王 艶 (オウ・エン)

私は王艶と言う。王は「王様」の王で、艶は「艶々しい」という艶である。今年、南京師範大学でもう大学院の二年生になった。そこで日本文学を専門として勉強してきた。恥ずかしいことに、日本の文学には実はあまり詳しくない。もしチャンスがあったら、いろいろな日本の方々と出会って、日本の文化や文学について聞きたいと思う。出身地は中国の河南省の南陽という所である。河南省と言えば、中国で一番数多い人口がいて、全部で約一億人に上る。河南省の大部分が黄河の南にあるので河南と称される。故郷の南陽の名所というと、三国時代の蜀の君主、劉備に仕えた諸葛亮をまつた武侯祠がある。家には両親と私と弟一人がいる。弟はまだ小さくて、中学校の二年生である。



日本に来るのは初めてである。正直に言えば、日本に来る前に、こちらでの生活にかなり心配していた。でも、こちらに来ると、その心配はどんどん私の頭から消えてしまう。みんな親切してくれて、いろいろ与えてくれた、本当にありがたいと思っている。ここでの一年間きっと私の人生の一番いい思い出になるのを信じている。

日本に来て、いろいろなところを見たり、日本人の話を聞いたり、たくさんのかたちを経験したりしたいと思う。日本は一体どういう国なのか、本の中ではなくて、自分の目でこの答を見つけたい。そして、日本人らしい日本語を話したい。日本語その言語だけではなく、日本人の考え方や言葉の術もしっかりと身につけたい。国に戻ったら、できるだけ正しい日本語を学生たちに教えて、日本の伝統や文化や歴史などを国の人にも紹介したいと思う。将来中日関係がもっと円滑に進むように私なりに努力しようと決心する。

陸 敏 (リク・ビン)

中国の南京師範大学から来た七人の留学生の中の陸敏です。出身は江蘇省の無錫です。今年22才で、一番年下ですから、皆に可愛がられています。

ほかの六人と違って、専門は日本語学です。日本語自体にとっても興味があります。チャンスがあったら、田川の方言もぜひ教えてください。

田川に来て、あっという間に二ヶ月も経ってしまいました。おかげさまで、毎日楽しく過ごしていて、大分慣れてきました。田川の皆様は本当に親切で、私達留学生のことを心からサポートしていると感じています。誠に感謝しております。

実は、三年前に福岡大学で半年くらい留学したことがあって、いい思い出をいっぱい作りました。本当に福岡が大好きです。田川での一年間も、掛け替えのない一年間になれるように、積極的に体験し、自ら田川の物事を見てみたいと思っています。

これからも、どうぞよろしくお願ひします。



聶 漁樵 (ジョウ・ギョウショウ)

中国南京師範大学からまいりました聶漁樵と申します。聶は三つの耳からなっている漢字で、漁樵は漁夫ときこりの意味です。昔の中国では、立派な人が隠逸したあと、常に漁夫やきこりなどとして、世俗を逃れて暮らしていました。ですから、父からもらったこの名前は意味深くて、「中国古い時代の隠士のように、高潔淡泊な心を持って生きていなさい」という親の願望が含めています。

いま私は、大学院二年生で、専門は日本文学です。

私は山東省の済寧の出身です。身に余る光栄で儒教の先聖である孔子と同じふるさとです。多分、自身もその影響を受けていて、幼いときから、中国と日本の古典文学や伝統文化などずっとたいへん興味を持っています。よろしくお願ひいたします。



クリスマスパーティーの司会をしました

嵯薺 丁雨君

いよいよ年末が近づいてきました。日本にきてから、あっという間に3ヶ月が経ちました。私たち二人はクリスマスパーティーの司会を応募しました。初めてなので、大変緊張にしました。

その日、私たちは早めに会場に着いて、パーティーの準備をしました。テーブルと椅子を拭いて、サンドイッチを配りました。リハーサルで司会のせりふを繰り返して練習しましたが緊張して、間違いがいっぱい出てきました。秋吉先生と赤坂さんは言葉遣いとか、話のスピードなど、いろいろ指導してくださいました。みんなの親切な笑顔を見て、やっと、落ち着きました。6時30分、クリスマス会はとうとう始まりました。

県大生の吹奏楽部の演奏のあと、皆さんが楽しみしていたビンゴゲームが行われました。私はBingoゲームが初めてでした。それ故、皆はゲームを楽しんでいた時に、私は日本料理の美味しさに夢中でした。一生懸命美味しいものを食べていました。気が付いたとき、リーチになりました。いつもそんなラッキーではない人だから、びっくりしました。間もなく、ビンゴになりました！夢



みたいでした。こんなラッキーな体験は初めてでした。このラッキーはきっと今周りの方々が私にくださったのでしよう。(雨)

パーティーで植木さんから肖像画を描いていただきました。素晴らしい絵でした！それも初めての経験でした。実は、その日はちょうど私の誕生日でした。誕生日の日にそんな素晴らしい絵をもらって、夢にも思わないことでした。皆は、親切な笑顔で誕生日の歌を歌ってくれて、一生忘れられない事でした。私の大事

な宝物です。(薺)

日本では、たくさんの初めての体験をしました。それはすべて私たちの大事な思い出になると思います。

第34回ふるさと田川囲碁大会のボランティアをしました、の感想文

張明 嵯薺 丁雨君

12月21日に、田川市民館で囲碁大会が行われました。私たち中国人留学生3人がボランティアとして受付をしました。実はもともと囲碁にはあまり興味がなかったです。ですから、囲碁大会に参加する方がこんなに多いとは思いませんでした。もちろん中高年の方が多かったけど、小学生が二三人もいました。囲碁は日本では本当に人気がありますね。そういう点にもぜんぜん思いませんでした。

受付が終わったら、試合の結果を記録しました。いい勉強になりました。AさんがBさんに勝ったら、丸の中には相手の名前を記録し、それに反して、CさんがDさんに負けたら、×の中に相手の名前を記録します。そして、一回戦が終わった後、二回戦の組み手を手配する時、お互いに相手としてないように気をつけなければなりません。最後の結果、最初の三回戦に勝ったけど、最後の最終戦に負けたのは第二位で、前に負けたことがあるけど、あわせて三回勝った方が三勝賞です。本当に細かいところまでよく考えましたね。



東京からのプロの棋士原幸子先生が遠いところからおいでになって、私たちは嬉しいことに、先生と一緒に話したり食事したりしました。立派な方で、親切です。他の参加者と囲碁をやったり、熱心に説明したりしました。試合の後、南山というレストランでご馳走してくださいました。美味



しい焼肉としゃぶしゃぶを食べました。みんなで一緒に話したりお酒を飲んだりして、楽しかったです。植木さんのおかげで、韓国の美味しいお酒が飲めました。全部飲んでしまって、申し訳なかったですね。

もともと囲碁は中国人が発明したものです。五世紀ごろ日本に伝えられて、幅広く浸透した。私たちはボランティアとして一番強く感じたことのは、囲碁は子供から老人まで幅広い市民に愛されるゲームでした。現代の日本プロ棋士の話によると、こんなに面白いゲームは人間ではなく、神様が発明したとしか思えないのである。その

話から見ると、囲碁は本当に日本全国民に愛されているということに感心した。

共に歩む会のおかげで、有意義な一日を過ごしまして、ありがとうございました。

2011 年新春初笑い

今、地元で人気上昇中の二人の共演会

川崎亭好朝・粗忽家酔書

日時：平成 23 年 1 月 1 7 日(月) PM6 : 00 会場 PM6 : 30 開演

場所：鷹羽会館

入場整理券 ¥ 1,000 (事務局長 植木まで)

次回定例会のお知らせ

1月の定例会はお休みです。

1月の役員会は上記落語会の後「とり茶」で行う予定です

